

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成29年10月30日※1
(前回公表年月日:平成28年9月30日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名 専門学校 東京テクニカルカレッジ	設置認可年月日 昭和62年3月27日	校長名 高瀬恵悟	所在地 〒164-8787 東京都中野区東中野4-2-3 (電話)03-3360-8881				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人小山学園	昭和49年10月23日	山本 匡	〒164-0001 東京都中野区中野6-21-16 (電話)03-3360-8831				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	Web動画クリエイター科	平成23年文部科学省 告示第167号	—			
学科の目的	グラフィックデザイン、フロントエンドプログラミング、動画制作、マーケティング、ディレクションまで、守備範囲の広いWeb及びWeb 動画制作技術の全体を見通し実践する力を育て、変化の速い業界のなかで本質を見失わず自らをアップグレードし全体に貢献 できる人材を育成する。						
認定年月日	平成 26年 3月 31日	名称変更:平成 28年 4月 1日					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総 単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1890時間	720時間	540時間	1170時間	0時間	0時間
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	14人	4人	2人	3人	5人		
学期制度	■1学期:4月4日~5月23日 ■2学期:5月24日~7月14日 ■3学期:8月29日~10月23日 ■4学期:10月30日~12月22日 ■5学期:1月15日~3月8日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期末に実施する履修判定試験の点数によって評価行 う。科目によっては課題点等も考慮することがある。			
長期休み	■学年始:4月4日 ■夏季:7月15日~8月28日 ■冬季:12月23日~1月14日 ■学年末:3月9日~4月3日		卒業・進級 条件	卒業にあつては履修時間表で定められた全ての履修科 目の履修を、進級にあつては当該年度の全ての履修科 目の履修を、条件とする。			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学習目標未達成者・欠席者に対する補講の実施 長期欠席者への個別指導、保護者への連絡、家庭訪 問等を実施		課外活動	■課外活動の種類 学園祭実行委員会、学内行事学生スタッフ、学内カフェス タッフ ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等			
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) Web制作、映像制作会社 株式会社キントローブ クロスコ株式会社 株式会社シンク 株式会社ティファナ・ドットコム など ■就職指導内容 1年各期末に全科合同で就職プログラムを実施 女子学生のための就職ガイダンスを実施 留学生のための就職ガイダンスを実施 各科にて、履歴書等の確認、模擬面接等を実施 ■卒業者数 8 人 ■就職希望者数 7 人 ■就職者数 7 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 87.5 % ■その他 ・進学者数: 1人		主な学修成果 (資格・検定 等) ※3	(平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報) 資格・検定名 種 受験者数 合格者数 Webデザイナー検定 ③ 4人 4人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該 当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし			
(平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)							

中途退学の現状	<p>■中途退学者 1名 ■中退率 6.2%</p> <p>平成28年4月1日時点において、在学者16名（平成28年4月1日入学者を含む） 平成29年3月31日時点において、在学者15名（平成29年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 経済的困窮（留学生）</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 中退防止を含む学生指導の窓口は、全てクラス担任が担っている。その上で、経済的困窮に関しては学務室が奨学金等の斡旋を行うなどの対応を行い、心身の不調や家庭の事情に関しては、その内容に応じて科長や事務長、副校長が個別相談を実施している。いずれの対応も、「学生指導記録データベース」によって情報を共有し、迅速で適切な対応を心掛けている。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 特待生制度、後援会企業奨学金制度</p> <p>■専門実践教育給付：給付対象 前年度給付実績者数：0人</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<p>URL:http://www.tera-house.ac.jp</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本科における教育課程の編成においては、Web・動画の制作実務者として必要とされる基礎的素養を身に付けさせることはもちろん、業界動向ならびに新技術の動向等もふまえて必要とされる知識・スキルを修得させることを目標としている。このことを実現させるために、また、形骸化しがちな資格偏重教育に陥らないための教授法や教材開発のために、本科では、業界諸団体等の意見を積極的に活かし、職業実践的かつ専門的能力育成に必要な内容を科目に落とし込むために、外部の関係者との間に密接な情報交換の場である「教育課程編成委員会」を設け、カリキュラム編成の参考にする体制を組織的に構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本科では、上記(1)で掲げた基本方針を実現させるために、かねてより卒業生が在籍する企業等との間に「情報系高度教育研究会」を設け、カリキュラムやシラバスの立案や教材開発、学生の成績評価にご協力を頂いてきた。この委員会は、本科の人材目標とカリキュラムの整合性の確認や、輩出した卒業生の業界での活動実態を把握することも目的の一つとしてきたが、今般、この「専門部会」を、職業実践専門課程の申請にあたって「情報・Web・ゲーム系教育課程編成委員会」と命名変更し、あらたに教育活動基盤形成のための組織として位置付けることとした。

当委員会の使命は、これまで同様、カリキュラムやシラバスの立案や教材開発、学生の成績評価であるが、今後はより企業との連携を前面に打ち出し、実習・演習科目において更なる充実を図ることとしている。なお、本委員会は、組織上は副校長の直下に組織され、校長を委員長として業界団体や有識者、企業関係者などの外部委員の他、教務部長、科長を内部委員として本科の教務関係の検討を行い、理事会への諮問をもってカリキュラムの変更等の承認を得る重要組織として位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
中山 典隆	東京商工会議所 中野支部 株式会社 イpsilon	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	①
杉山 司	特定非営利活動法人 中野コンテンツネットワーク協会、桔梗ICTパートナーズ株式会社	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	①
澤坂 智之	株式会社 スケアクロウ	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	③
國谷 誠	株式会社 アルカディアソフト開発	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	③
松嶋 守仁	サイド・ビィ株式会社	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	③
沖野 仁美	株式会社テクニカル・ジィ	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	③
高橋 秀明	ネクサート株式会社	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	③
高野 恵司	ドコモ・データコム株式会社	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	③
秋田 隆輝	豊作プロジェクト株式会社	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	③
川勝 誠治	株式会社 エスポ	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	③
高瀬 恵悟	専門学校東京テクニカルカレッジ 校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	
白井 雅哲	専門学校東京テクニカルカレッジ 副校長/企画部部長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	
小川 貴伸	専門学校東京テクニカルカレッジ 事務長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	
井坂 昭司	専門学校東京テクニカルカレッジ 情報処理科科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	

呉石 義明	専門学校東京テクニカルカレッジ 情報処理科	平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年)	
川辺 伸司	専門学校東京テクニカルカレッジ Web動画クリエイター科科長	平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年)	
宮川 進悟	専門学校東京テクニカルカレッジ Web動画クリエイター科科	平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年)	
松田 達夫	専門学校東京テクニカルカレッジ ゲームプログラミング科科長	平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年次委員会を4月～8月期に一度、12月～3月期に一度の2回開催する。また、年度末に卒業研究・卒業制作を中心とした学習成果発表会に参加いただき、カリキュラムおよび学習目標の達成度を確認・評価いただく。なお、必要と認められる場合は臨時委員会を開催する。

なお29年度実施日時(実施予定日時)は以下とする。

(開催日時)

第1回 平成29年 7月21日 15:00～17:00

第2回 平成29年11月22日 15:00～17:00

第3回 平成30年 3月14日 13:30～17:00(卒業研究・卒業制作等学習成果発表会を兼ねる)

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

① 教育課程編成委員会にて委員より出された意見を課題制作のマネジメントに反映。

課題制作の授業内において、企画力を養う為には制作時間を増やすと同時に各授業の連携を強化する必要があるとの指摘を受けた。これをふまえて、各科目で別々に出していた制作課題を各科目の講師陣が連携し一本化し、科長が進捗管理・フォローすることとした。

対象時期: H28年度5期(2017/1/12～3/2)

対象科目: サイト制作2/グラフィックデザイン演習6/フロントエンドプログラミング3

② 課題制作の授業内においては、学生の緊張感とモチベーションを維持するために、大学生や他校と競争する機会必要との指摘を受けた。これをふまえて、課題制作授業の学習成果をコンテストに出展することとした。

対象時期: H29年度夏季休暇～3期(2017/7/13～9/30)

対象科目:

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校では、教育活動の形骸化を防止するためには、まずは上記の教育課程編成委員会等において現在のカリキュラムや授業内容等をチェックして頂く事が必要であると考えているが、併せてその実施にあたって企業からの協力が欠かせないと考えている。

具体的には、カリキュラムの中に企業連携科目を組み込み、その科目の前後の科目とも有機的に連携させ、入学から卒業に至る一連のプロセスの成果として表れるようにすべきと考えている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業のWebサイトをリニューアルする案件を課題に企業連携による実習を実施している。ただ単に要望を聞いて制作するだけではなく、対象企業の業界研究、競合研究を通して企画立案を行い、リニューアルを提案(プレゼン)を行っている。

一例として、遊具メーカーの販売サイトのデザインリニューアル提案を行った。その際企業担当者からのヒアリングを元に現状サイトの問題点、取り扱い商品の販売ルート、商品特性の研究を行い、デザイン案を1

名につき1案作成し、優秀な作品を校内で選定し企業へ提案を行った。特にデザイン制作の過程においては対象企業を担当しているプロのWebデザイナーから定期的に指導を受け、段階的にチェックレベルを高目、実務レベルを意識したコメントをもらっている。またプレゼンテーションにも参加してもらいコメント・アドバイスを貰い、成果品の質の向上を計っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
2DCG制作	トラッド・ポップ・クール・エレガンスの4つのテイストを元に、既存のWebサイトのリニューアルデザインを行い、それぞれのターゲットユーザーに好まれる色や形などデザインを考え表現できる技術を習得する。その成果として、実際の企業サイトのリニューアルデザイン(案)作成し、提案を行う。	株式会社チャイルド社 THEATER MOON
情報デザイン8	今まで学んだ知識・技術を使って、外部サイトの制作を企画する。クライアントへのインタビュー、競合サイトの調査、サイトコンセプトやサイトの目的の確定、コンテンツの収集・編集、サイトの構成・デザインカンプの作成を行い、実装してサイト完成・公開につなげる。	株式会社チャイルド社 THEATER MOON

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校では、専門学校の教員には実務、学術、教授力の3つの要素が欠かせないと考えており、そのそれぞれの専門性を向上させるためには、現状の能力等を適切に評価し、改善点を明確にした上で、適宜研修等による育成策を実施しなければならないと考えている。

以上の様な考え方にに基づき、本校では各教職員の適性や要スキルアップ項目等を見極めた上で、「小山学園研修規定」ならびに「東京テクニカルカレッジ教職員研修方針」、「同 教員研究方針」に基づき、研修・研究計画の立案や実施を行っている。具体的な内容としては、主に企業や団体に依頼する形で実施される「専門性向上研修」や「教授法研修」、学内での集合研修が中心となる「教育界認識研修」などがあげられる。これらの研修は、年度計画に基づいた校長指示により実施されるが、教職員自らが自己研鑽に務めることを目的として自ら研修・研究の実施を希望する場合においても、校長判断によりこれを認めることがある。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

□ Monacaプログラミング教育研修会(参加者:川辺、3/29)

□ Web戦略セミナー 2018 以降のWeb戦略 先進校が今学生募集で考えていること(参加者:川辺、6/28)

② 指導力の修得・向上のための研修等

□ 「3つのポリシー(アドミッションポリシー)策定に関する研修」(参加者:全教職員、7/29)

3つのポリシー(ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー)の策定および教員の一体的な指導を強化するために、教員アンケートを実施し各科のエンrollmentマネジメントの状況を確認・共有する。

□ 「留学生指導およびアカデミックハラスメントに関する研修」(参加者:全教職員、12/26)

増加する留学生に対する指導方法等に関しその要点を共有するとともに、アカデミックハラスメントに関する注意喚起を行う。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

□ DISTセミナー「アニメーションで差を付ける演出とデザイン」(参加者:宮川、04/21)

□ DISTセミナー「esa meetup in Tokyo～情報共有Night」(参加者:宮川、06/23)

□ DISTセミナー「Webデザインの現場のための効率化術」(参加者:宮川、08/25)

□ オンライン学習サービス「ジッセン！」受講(テーマ:Webマーケティング)(参加者:川辺、2017/10)

□ データサイエンス研究所 データ分析法入門(参加者:川辺、2017/11)

□ Googleアナリティクス認定試験対策オンライン講座 Analytics Academy受講(参加者:川辺、2017/12)

②指導力の修得・向上のための研修等

□「3つのポリシー(ディプロマポリシー)策定に関する研修」(参加者:全教職員、7/31)

ディプロマポリシーの策定および教員の一体的な指導を強化するために、各科の人材目標および卒業時の学生の仕上がり具合を確認・共有する。

□「卒業生アンケート結果に関する報告研修」(参加者:全教職員、7/31)

各科の教育内容・学生指導方法を向上させるために、第2回卒業生アンケート結果をもとに現行教育活動の問題点を抽出・共有する。

□コンソーシアムTokyo「第5回教育活動報告会」(参加者:宮川、9/28)

当校当科の教育内容・教授法の充実に向け、加盟専門学校各校の教育活動を知る。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校では、職業教育を旨とする高等教育機関として、各業界において必要とされる人材の育成を関係業界等のニーズを踏まえ目標化する。教育成果を評価しているかについて適切な説明責任を果たすために、どのような理念のもとで教育活動を行なっているのか、また業界との相互の課題やニーズ等の共有化に向けて、教育活動のみならず学校運営の状況を公表する。そして、関係する企業、職能団体等、卒業生、在校生保護者、地域の方や自治体関連部署等の評価を受け、その結果に教育活動、学校運営の改善を図ることにより高等教育機関としての責任を果たすことを目的に学校関係者評価を行うことを基本方針とする。なお、評価者として企業役員、関連諸団体の役職者等に積極的に参画いただき、職業に必要な知識・技能・態度に係わる質保障の視点を踏まえた評価の精度を上げることも方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準1 教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準2 学校運営
(3)教育活動	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準3 教育活動
(4)学修成果	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準4 学修成果
(5)学生支援	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準5 学生支援
(6)教育環境	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準6 教育環境
(7)学生の受入れ募集	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準7 学生の募集と受入れ
(8)財務	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準8 財務
(9)法令等の遵守	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準9 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準10 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

本校では、「専修学校における学校評価ガイドライン(専門学校等評価機構)」に準拠する形で「自己評価報告」を行っており、これを元に学校関係者評価委員会を開催している。委員会において指摘された箇所については、校として必要な取り組みは校長、学科として必要な取り組みは科長を責任者として、指摘事項の改善を図ることとしている。

例えば、2000年以来専門知識・技術の習得のために90分間毎の授業評価を実施するなど履修改革に取り組んできたが、その一方自ら問題を発見し解決する能力などの開発も重要であるとの指摘を受けてきた。そうした指摘をふまえて、PBLの手法を取り込んだ問題解決型授業「リアルジョブプロジェクト(以下RJP)」の創設・実施に取り組んできた。RJPに関しては、半期に一度の委員会において進捗状況を報告するとともに、年度末に成果報告を高覧いただき、その都度意見をいただき改善に努めてきた。その成果として、学科横断・企業連携による学内カフェ開設を達成し、学生の問題解決能力等の向上を図ることができた。また、RJPを正規科目として登録する際には、PBLにおいてそのプロセスを公正に評価する方法が必要との指摘を受けて、授業毎・期毎・年度毎の3種類のルーブリック評価票を開発し、学習の成果ならびに学生の成長を見える化することに取り組んできた。

また卒業生委員からは、卒業生と学校、卒業生同士のつながりが弱いとの指摘を受けた。それをふまえて、一昨年度から卒業後1年・5年・9年経った卒業生を対象に「卒業生調査」を実施、学習成果を確認するとともに学内改善の基礎資料とすることとした。また同時に同窓会の活性化に向けてあらためて取組みを開始した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
安藤 拓也	株式会社 miwa	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	卒業生
渡邊 和彦	データテクノロジー株式会社	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	卒業生
澤坂 智之	株式会社 スケアクロウ	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	卒業生
立田 由里子	独立行政法人 理化学研究所	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	卒業生
大沼 友紀	建築科 保護者	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	保護者
萩原 浩明	情報処理科 保護者	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	保護者
安藤 修弘	環境テクノロジー科 保護者	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	保護者
樋口 修	東京商工会議所 中野支部 株式会社 ヒグチ設計	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	地域
中山 典隆	東京商工会議所 中野支部 有限会社 イプシロン	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	地域
岸 哲也	東中野五丁目小滝町会	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	地域
大塚 雄二	一般社団法人 建築家協会 大塚雄二都市建築設計事務所	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	企業等
霜野 隆	一般社団法人 インテリアプランナー協会 株式会社レスト	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	企業等
杉山 司	特定非営利活動法人 中野コンテンツネットワーク協会、桔梗ICTパートナーズ株式会社	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	企業等
川戸 茂	株式会社 システム・ユー	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	企業等
佐々 義子	特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	企業等
小野寺 洋子	株式会社 光英科学研究所	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	企業等
高瀬 恵悟	専門学校東京テクニカルカレッジ 校長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	学内
白井 雅哲	専門学校東京テクニカルカレッジ 副校長/企画部部长	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	学内
小川 貴伸	専門学校東京テクニカルカレッジ 事務長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	学内
杉本安雄	専門学校東京テクニカルカレッジ 建築監督科科长	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	学内
野上 和裕	専門学校東京テクニカルカレッジ 建築科科长	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	学内
鈴木 昇	専門学校東京テクニカルカレッジ 建築科夜間課程科長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	学内
高山 寿一郎	専門学校東京テクニカルカレッジ インテリア科科长	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	学内
井坂 昭司	専門学校東京テクニカルカレッジ 情報処理科科长	平成29年4月1日～平成30年3月31日(任期2年)	学内

川辺 伸司	専門学校東京テクニカルカレッジ Web動画クリエイター科科長	平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年)	学内
松田 達夫	専門学校東京テクニカルカレッジ ゲームプログラミング科科長	平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年)	学内
大江 宏明	専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科科長	平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年)	学内
今野 祐二	専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科科長	平成29年4月1日～平成30 年3月31日(任期2年)	学内

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物(その他)平成28年度版「自己評価報告書」)

URL:<http://www.tera-house.ac.jp/tec/disclosure/index.html>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、実践的な職業教育を行う教育機関として、関係業界等のニーズを踏まえ、どのような理念・目的・目指す人材像等を掲げて取り組んでいるか適切な説明を行う必要があるという認識のもと、「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づいた評価項目をもって、学校関係者に情報公開を積極的に行い、学内外に対して普遍的判断のつく教育活動の透明性の証明の為に情報を公表する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	テクニカルHP > 学校紹介 > 建学の精神・学園理念 テクニカルHP > 学校紹介 > 校長挨拶 学園HP > 学園概要
(2)各学科等の教育	テクニカルHP > 学科紹介
(3)教職員	テクニカルHP > 公開情報
(4)キャリア教育・実践的職業教育	テクニカルHP > 就職 > 就職サポートプログラム テクニカルHP > 学校紹介 > 仕事場カリキュラム
(5)様々な教育活動・教育環境	テクニカルHP > 学校紹介 > 授業の特長 学園HP > 教育への取組み
(6)学生の生活支援	学園HP > 入学案内・奨学金 > 奨学金/融資制度 テクニカルHP > キャンパスライフ
(7)学生納付金・修学支援	学園HP > 入学案内・奨学金
(8)学校の財務	テクニカルHP > 公開情報
(9)学校評価	テクニカルHP > 公開情報
(10)国際連携の状況	学園HP > 学園概要 > 海外姉妹校・協力校 テクニカルHP > キャンパスライフ > 海外研修制度:海外短期留学研修 テクニカルHP > キャンパスライフ > 海外研修制度 > 建築・インテリア海外研修
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.tera-house.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程Web動画クリエイター科) 平成29年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
○			情報リテラシー	コンピュータなどのメディアを活用した情報の収集・検索、コミュニケーションを行う基礎知識のことを「情報リテラシー」といいます。これはインターネットを使って調べたり、メールを使って連絡を取り合うなど、日常的に色々な手段を使いこなしてこそ得られるものです。この科目では、「教材」としての学内におけるノートパソコン利用、当校のコンピュータ環境にまず慣れるために必要なことを学びます。	1 (1)	15	1	○			○		○		
○			PCリテラシー	様々なビジネス文書、見積書などの表計算、データシートやグラフ、プレゼンテーション資料などの作成に必要なWord・Excel・Powerpointの基本操作を学びます。またWebページの制作に使用するテキストエディタ、ブラウザのインストールを行い、基本操作を習得し、HTML・CSSのコーディングに活かすことで、PCを使った日常の業務の効率化を図ることができます。	1 (1)	30	2	○			○		○		
○			情報デザイン1	Webサイトが表示される仕組み、世の中でどのような役割を果たしているかを学ぶ。Webサイトの制作技術を学ぶ上での前提知識として制作のワークフロー、設計についての概要について理解しておく。	1 (1)	15	1	○			○		○		
○			情報デザイン2	Webサイトレイアウトの基本を学ぶ。レイアウトのトレンドを確認し、コンテンツに沿ったレイアウトを理解する。コンテンツを考え、簡易ツールを使い、Webサイトを制作する。	1 (2)	15	1	○			○		○		
○			情報デザイン3	撮影した動画を編集するソフトAdobe Premiere Proの操作方法を習得する。Adobe Premiere Proはプロの現場でも使われておりWeb動画クリエイター科での動画制作はこのソフトウェアでの制作を標準とする。	1 (2)	15	1	○			○		○		
○			情報デザイン4	Webサイトの情報設計を実践を通して習得する。これまでで知識として学んだできた情報設計の方法を復習しながら、一人で小規模サイトの設計ができる技術を習得する。	1 (3)	15	1	○			○		○		
○			HTML5_1	HTMLの基本を学習する。WEBサーバとブラウザの関係を理解し、Webサイトがどのように表示されるのかを理解する。その後、HTMLの基本構造、各要素と学習しHTMLとCSSの役割を学びHTMLが装飾で使うものではないということを理解し、構造と装飾を分けて考えられるようになる。	1 (1)	30	2	○			○			○	
○			HTML5_2	CSSを中心に、ビジュアルとしてWebサイトを作成する方法を学習する。セレクトとテキストとボックスモデルのプロパティを中心に学習し、1カラムのレイアウト構成ができる技術を習得する。	1 (2)	45	3	○			○			○	
○			HTML5_3	1カラムレイアウトから複数カラムレイアウトの作成ができる技術を習得する。新しい技術として背景画像、table、float、新しいリストの要素を中心にレイアウトだけでなく、より詳細な意味付けと構造が構築できる技術を学習する。その他にはSEO対策として重要なmeta要素、title要素の具体的な指定方法も学習する。	1 (3)	30	2	○			○			○	
○			サイト制作1	Webサイト制作に必要な前提知識について復習をしながら理解する。Webの仕組み、制作ワークフローについての学習を行い、今まで習得した制作作業の一つ一つの意味を理解する。この内容はWebデザイン検定の出題範囲に該当し試験対策となる。	1 (4)	30	2	○			○			○	
○			サイト制作2	学年末制作のポートフォリオサイトの企画立案～情報/意匠設計のプロセスを実践をとおして習得する。企画立案においてはポートフォリオサイトについて企業担当者は何を見て、自分は何をアピールするかを想定し、コンテンツ構成を考える。	1 (5)	30	2	○			○			○	
○			Webサーバー技術	3期のCMS WordPress開発技術習得の前提知識として、WordPressを構成しているプログラミング言語であるPHPの基本について学習する。	2 (2)	30	2	○			○			○	
○			JavaScript1	フロントエンドプログラムであるJavaScriptを学習する。HTMLとCSSの違いを理解し、プログラムをつくるための工程を考える力を習得する。	1 (3)	30	2	○			○			○	
○			JavaScript2	jQueryの使用法を深く理解できるよう学習する。トラバースや要素の操作を含め、JavaScriptを使った時間指定の操作を行う。最後に実践として、実務で使える効果を学習する。	1 (4)	30	2	○			○			○	
○			JavaScript3	jQueryの様々なケースにおける使い方を学習する。一部、javascriptについても学習し、jQueryとJavaScriptの使い分けができるようになる。	1 (5)	30	2	○			○			○	
○			スタイルシート1	CSSを中心に、ビジュアルとしてWebサイトを作成する方法を学習する。セレクトとテキストとボックスモデルのプロパティを中心に学習し、1カラムのレイアウト構成ができる技術を身につけることを目標とする。	1 (2)	30	2	○			○			○	
○			スタイルシート2	3期では、2期で学んだ要素とプロパティをもとにより複雑なレイアウトを作成する技術を実習を通して学習する。背景画像を使った装飾やマルチカラムレイアウトの作成が行えるfloatが中心。最終的にHTML5/CSS3でPCサイトが作成できる技術を習得する。	1 (3)	30	2	○			○			○	

○		グラフィックデザイン入門	PCをはじめスマートフォン等の普及、インフラの整備、ソフトウェアの機能向上などを受けて、現在はごく一般の誰もがデジタルでのクリエイティブ環境を手に入れられる。その中において、プロフェッショナルとしてデザイナーの価値がどこにあるのかという問題は、年々難しくなっている。この科目では、プロフェッショナルとしての第一歩をスムーズに踏み出せるよう、Illustratorというソフトウェアの習得を通じて「自分の考えたデザインをカタチにする」面白さを体感する。	1 (1)	30	2			○	○	○			
○		動画編集	グラフィックスの動的表現であるモーショングラフィックス事例、制作ツールであるAfterEffectsの基本操作について学習する。動画のオープニングや挿入テロップの質を上げるためには必要な技術であり、モーショングラフィックスは今後Webでも多用されてゆく可能性があるので、illustrator習得の延長としてAfterEffectsの基本的な操作も習得し表現の幅を広げる。	1 (4)	30	2			○	○	○			
○		情報デザイン5	ポートフォリオサイトをブラッシュアップする。ブラッシュアップのポイントはインタラクション表現を加えること。よく使われるインタラクション表現を参考にし、CSS3を使い改訂を行う。	2 (1)	15	1			○	○	○			
○		情報デザイン6	PHPによるメールフォームのプログラミング技術について実習を通して学習する。後半はポートフォリオサイトのレスポンシブ対応を課題に、レスポンスサイトのコーディングに必要な技術を実習を通して学習する。	2 (2)	30	2			○	○	○			
○		情報デザイン7	WordPressを使ったWebサイト制作技術を学習する。固定ページ、カスタム投稿タイプ、カスタムフィールドを使い、運用しやすいWebサイトの構築方法を実習を通して理解する。	2 (3)	30	2			○	○	○			
○		情報デザイン8	今まで学んだ知識・技術を使って、外部サイトの制作を企画する。クライアントへのインタビュー、競合サイトの調査、サイトコンセプトやサイトの目的の確定、コンテンツの収集・編集、サイトの構成・デザインカンプの作成を行い、実装してサイト完成・公開につなげる。	2 (4)	30	2			○	○	○			○
○		情報デザイン9	卒業制作サイトの企画立案～情報/意匠設計を行い、上流工程の作業手順を実践を通して習得する。	2 (5)	30	2			○	○	○			
○		HTMLオーサリングツール	Webオーサリングツールの代表である Adobe Dreamweaver の基本的な操作方法を学習し、WebオーサリングツールによるWebサイト制作技術を習得する。	1 (3)	15	1			○	○	○			
○		周辺機器活用技術	動画撮影の周辺機器（カメラ以外の撮影機材）の用途、使用方法を学習し、それらを活用した動画制作に取り組む。また、Premiere proの利用技術向上のため、エフェクト、カラーコレクション/グレイディングの適用を行った編集技術を実習を通して学習する。	2 (1)	30	2			○	○	○			
○		映像機器&撮影技術	様々なシチュエーション（インタビュー、店舗、物撮り、屋外）での動画撮影方法を学習する。また、インタビュー撮影における音声収録、物撮りにおけるライティング（証明）方法についても実践を通して学習する。	1 (2)	15	1			○	○	○			
○		カメラテクニック	動画の撮影技術を学習する。撮影現場で必要な準備・段取り、撮影テクニックを学びクオリティの高い動画制作を目指す。	1 (2)	15	1			○	○	○			
○		フロントエンドプログラミング1	追加の要素やプロパティとHTML5, CSS3を学習する。HTML5は、divに変わる要素を中心に紹介し、CSS3は、装飾を中心に画像を利用しなくてもデザインができるものを紹介する。	1 (4)	30	1			○	○	○			
○		フロントエンドプログラミング2	追加の要素やプロパティとHTML5, CSS3を学習する。ここまでの総復習としてHTML5とCSS3を使ったサイトを作成する。	1 (4)	30	1			○	○	○			
○		フロントエンドプログラミング3	デバイスに応じて、CSSを切り替える手法「レスポンシブサイト」を学習する。レスポンシブサイトは、今後も主流となる手法でGoogleも推奨している。CSSの構造が複雑になるので、徐々にレイアウトが作れるように進める。	1 (5)	30	1			○	○	○			
○		CMS	CMSの基本を学習する。CMSはWordPressとする。WordPressのテンプレート開発の作業は制作会社に入った場合、取り組む機会が多い。WordPressをインストールしカスタマイズすることで、CMSのメリット、デメリットを理解し、操作方法、機能の内容について学習する。	2 (3)	30	1			○	○	○			
○		サイト制作3	グラフや表の作成を学び、「インフォグラフィック」に挑戦する。インフォグラフィックとは情報をビジュアルで表現することで分かりやすく内容を伝え、見る人に効率よく理解してもらうための表現方法であり、近年はWebサイトでもよく利用されている。	2 (2)	30	1			○	○	○			
○		グラフィックデザイン演習1	最初の授業としてWebサイト、動画の作り方の概要を学習する。また、1期の目標として「90秒以内の動画制作」を掲げており、動画を制作する上で必要最低限の手順を習得する。	1 (1)	30	1			○	○	○			
○		グラフィックデザイン演習2	グラフィックのプロも愛用するAdobe製品（Photoshop・Illustrator）の習得を目指し、思ったとおりの表現がこれらソフトによって行えるようになる。Photoshopでは写真の加工はもちろん、合成やテキスト作成などのクリエイティブワークを学習する。Illustratorは基本の操作（変形、ペンツール等）をしっかり学び、目的に応じて自由にツールを扱えることを目指す。	1 (2)	30	1			○	○	○			
○		グラフィックデザイン演習3	デザインにおける基礎となる平面構成、色、書体などについて学ぶ。コンピュータでの描画には、色がどうやって表現されているのか、文字のデータはどうやって格納されているのか、線はどのように作成されているのかなどを理解する。	1 (3)	30	1			○	○	○			
○		グラフィックデザイン演習4	IllustratorやPhotoshopを用いたWebサイトのワイヤーやカンプが作成できるような技能を実習を通して習得する。実際の作業と同じ工程をなぞりながら学習することで、どんな時にどんな風にIllustratorやPhotoshopを使うのかを体得し、色や書体に留意した作品が制作ができるようになる。	1 (3)	30	1			○	○	○			

○		グラフィックデザイン演習5	ロゴマーク、ロゴタイプ、表組み、地図、グラフ、ボタン、アイコン、イラストレーションなどのデザインパーツの制作技術を実習を通して習得する。パーツの作成を通して「より美しく・より伝わる」デザインについて考える。ニーズにあわせてパーツを作成する能力を磨くため、いろいろな設定において図版・画像が作れるように反復練習を行う。	1 (4)	30	1								○	○				○
○		グラフィックデザイン演習6	これまでのデザインに関する基礎教育を元にし、「より美しく・より伝わる」デザインについて考える。プロが作成し、すでに公開されているサイトにはデザイン上の様々な工夫が詰まっている。それらをトレースすることでプロとしての視線や考え方、またそれらを作り出すテクニックを学び取る。	1 (5)	30	1								○	○				○
○		グラフィックデザイン演習7	「ポートフォリオサイトのカンパ作成」を経て、ポートフォリオを紙に出力する場合の方法を学び、スムーズな就職活動への礎とする。また、グラフィックソフトの技術を再確認するために、特にPhotoshopを利用してのサイトのバナー制作に取り組む。	2 (1)	30	1								○	○				○
○		Webアプリケーション開発1	displayプロパティの復習と新しいdisplayプロパティの値について学習する。新しい疑似クラスと疑似要素が中心。疑似クラスでは、数で要素を絞り込むカウント疑似クラスの使い分けと応用。疑似要素では、指定方法とアイコンフォントのFontAwesomeを疑似要素で使えるようになる。さらにCSSフレームワークであるBootstrapを紹介する。	2 (1)	30	1								○	○				○
○		Webアプリケーション開発2	ブログページ、レスポシブサイトのコーディング実習を通して、HTML/CSS/JavaScriptの理解をさらに深める。また、より正確に早くコーディングができる技術を習得するためにEmmetの活用技術を習得する。	2 (2)	30	1								○	○				○
○		Webアプリケーション開発3	JavaScriptのフレームワークを使った実装技術を習得する。流行のSPA (Single Page Application)などはJSのフレームワークにより実装されており、フロントエンドエンジニアの仕事ではフレームワークを使った開発を標準にしているケースが多い。	2 (4)	30	1								○	○				○
○		Webマーケティング1	Webマーケティングの基礎知識を学ぶ。Webサイトの成果であるコンバージョンを獲得するための様々な手法を理解していくにあたり、用語やそれぞれの手法の内容や期待効果、使用目的を理解する。	2 (2)	30	1								○	○				○
○		Webマーケティング2	広告ビジネスの基本を理解し、動画マーケティングを加えてWebでの様々なマーケティング手法を学習する。Webマーケティングの各種施策を理解した上で、企画、戦略立案をカスタマージャーニーマップの作成手法を学習しながら実践する。	2 (3)	30	1								○	○				○
○		Webマーケティング3	検索エンジンマーケティングのSEOの基本的な考え方、手法を学習し検索エンジン上で表示順位を上げる方法を習得する。また「GoogleAnalytics」によるWebサイトのトラフィックやマーケティング効果などのアクセス解析を学習する。	2 (4)	30	1								○	○				○
○		Web解析1	Web分析の目的、指標、視点について学習する。Web解析ツールGoogle Analytics (GA) の操作方法、メニューを理解し、レポート分析ができる技術を習得する。	2 (3)	30	1								○	○				○
○		Web解析2	実際のWebサイトのモニタリングデータを使い、Web解析を実践する。解析結果からどのような解決策を導けば良いか、事例を参照しながら考える力(分析力)を養う。	2 (4)	30	1								○	○				○
○		CG制作	デザインパーツを時間を区切り、数多く制作することによりクオリティはもちろん作業スピードのアップを図ることを目的とした実習を行う。	2 (2)	30	1								○	○				○
○		2DCG制作	トラッド・ポップ・クール・エレガンスの4つのテイストを元に、既存のWebサイトのリニューアルデザインを行い、それぞれのターゲットユーザーに好まれる色や形などデザインを考え表現できる技術を習得する。その成果として、実際の企業サイトのリニューアルデザイン(案)作成し、提案を行う。	2 (3)	30	1								○	○				○
○		3DCG制作1	AfterEffect 3Dレイヤーを活かしたアニメーション制作に取り組む。AfterEffect 操作の復習をしながら3Dのアニメーションを参考にし、3D空間を使った表現にチャレンジする。	2 (4)	30	1								○	○				○
○		3DCG制作2	AfterEffect 3Dレイヤーを活かしたアニメーション制作に取り組む。このアニメーションは卒業制作として取り組む。テーマは各自が考えて設定するが映像の投影対象としてプロジェクションマッピングにチャレンジしても良い。	2 (5)	30	1								○	○				○
○		モーショングラフィックス	これまで学んできたグラフィック技術 (Illustrator、Photoshop、AfterEffects) を生かした作品を制作し専門学校での2年間の集大成とする。	2 (5)	30	1								○	○				○
○		デジタルメディア活用技術	プロの制作者になったら使うWebサービス、ツールについて紹介し、使えるようになっておく。前半はチーム開発に必要なバージョン管理サービスGitHub、後半はスタイルシート言語であるSassの使い方を習得する。	2 (4)	30	1								○	○				○
○		動画制作技術1	動画の企画立案・撮影 (プリプロ、プロダクション) を中心に制作技術を学習する。絵コンテ作成を中心にシナリオが事前に出来上がった上でプロダクションに臨むプロセスを踏めるようにする。	2 (2)	30	1								○	○				○
○		動画制作技術2	動画の編集 (ポストプロ) を中心に制作技術を学習する。動画制作実習を通じてカット選び、カットつなぎ、MA、カラコレの技術を向上させる。	2 (3)	30	1								○	○				○
○		次世代デバイス対応技術	レスポシブレイアウトの様々なパターンを応用例とともに実装方法を学習する。レスポシブにおけるレイアウトパターンはアイデア次第で様々な手法が考えられる。応用例を参照しながら実装を行い、様々なデバイスで表示可能なHTML5/CSS3の実装技術を身につける。	2 (1)	30	1								○	○				○

○		リアルジョブプロジェクト (RJP) 1	<p>【2期/問題発見プログラム】</p> <p>リアルジョブプロジェクト(RJP)においては、「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」などの技術力に留まらない「社会性(社会で活躍する力)」を身につけることを目標に、学際横断・企業連携によるPBL(Project Based Learning)に取り組んでいく。</p> <p>学生の皆さんはRJPの授業をとおして下記に示す能力の向上に努めること。</p> <p>①問題を発見し解決するために合理的に考える能力 ②人の話を聞き自分の意見を伝えるためのアサーティブな能力 ③自分たちの考えをまとめる能力とそれを発表する能力 ④問題解決に向かうための協調性と行動力 ⑤問題解決に向かうための時間等の管理能力</p> <p>特に2期においては、専門性をとおしてどのような問題解決に取り組むか検討する「問題発見プログラム」に取り組んでいく。社会的に意義のある問題発見・課題設定ができるよう積極的な授業参加を期待するとともに、学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p>	1②	30					○	○	○					
○		リアルジョブプロジェクト (RJP) 2	<p>【3期/問題解決策定プログラム】</p> <p>特に3期においては、2期に検討した「問題発見プログラム」の解決に向けて具体的な方策を策定する「問題解決策定プログラム」に取り組んでいく。4期以降の円滑な活動に向け十分な検討ができるよう積極的な授業参加を期待するとともに、学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p>	1③	30					○	○	○					
○		リアルジョブプロジェクト (RJP) 3	<p>【4期/問題解決実践プログラム】</p> <p>特に4期においては、3期に検討した「問題解決策定プログラム」の解決策にしたがって「問題解決実践プログラム」に取り組んでいく。年度末に十分な問題解決の成果が上がるよう積極的な授業参加を期待するとともに、学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p>	1④	30					○	○	○					
○		リアルジョブプロジェクト (RJP) 4	<p>【5期/問題解決報告プログラム】</p> <p>特に5期においては、4期に引き続き「問題解決実践プログラム」に取り組むとともに、期の後半には年度末に行われる学習成果報告会に向けて、問題解決の報告をまとめる「問題解決報告プログラム」に取り組んでいく。学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p>	1⑤	30					○	○	○					
○		リアルジョブプロジェクト (RJP) 5	<p>【2期/問題発見プログラム】</p> <p>リアルジョブプロジェクト(RJP)においては、「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」などの技術力に留まらない「社会性(社会で活躍する力)」を身につけることを目標に、学際横断・企業連携によるPBL(Project Based Learning)に取り組んでいく。</p> <p>学生の皆さんはRJPの授業をとおして下記に示す能力の向上に努めること。</p> <p>①問題を発見し解決するために合理的に考える能力 ②人の話を聞き自分の意見を伝えるためのアサーティブな能力 ③自分たちの考えをまとめる能力とそれを発表する能力 ④問題解決に向かうための協調性と行動力 ⑤問題解決に向かうための時間等の管理能力</p> <p>特に2期においては、専門性をとおしてどのような問題解決に取り組むか検討する「問題発見プログラム」に取り組んでいく。社会的に意義のある問題発見・課題設定ができるよう積極的な授業参加を期待するとともに、学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p>	2②	30					○	○	○					
○		リアルジョブプロジェクト (RJP) 6	<p>【3期/問題解決策定プログラム】</p> <p>特に3期においては、2期に検討した「問題発見プログラム」の解決に向けて具体的な方策を策定する「問題解決策定プログラム」に取り組んでいく。4期以降の円滑な活動に向け十分な検討ができるよう積極的な授業参加を期待するとともに、学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p>	2③	30					○	○	○					
○		リアルジョブプロジェクト (RJP) 7	<p>【4期/問題解決実践プログラム】</p> <p>特に4期においては、3期に検討した「問題解決策定プログラム」の解決策にしたがって「問題解決実践プログラム」に取り組んでいく。年度末に十分な問題解決の成果が上がるよう積極的な授業参加を期待するとともに、学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p>	2④	30					○	○	○					
○		リアルジョブプロジェクト (RJP) 8	<p>【5期/問題解決報告プログラム】</p> <p>特に5期においては、4期に引き続き「問題解決実践プログラム」に取り組むとともに、期の後半には年度末に行われる学習成果報告会に向けて、問題解決の報告をまとめる「問題解決報告プログラム」に取り組んでいく。学生の皆さんが、RJPの授業に積極的にそして粘り強く取り組む中で、専門性を活かすための「社会性」を向上させることを期待する。</p>	2⑤	30					○	○	○					
○		校外実習1	<p>長野研修センターでの活動を撮影し1本の動画に編集する。</p> <p>目的はこれから長野研修に行く在学生や、入学応募者に長野研修をイメージしてもらうこと。</p> <p>長野の良いところを見つけ動画を納め活動を通して動画制作者としての観察眼を養う。</p>	1 (5)	30	1					○	○					
○		校外実習2	<p>長野研修センターでの活動を撮影し1本の動画に編集する。</p> <p>目的はこれから長野研修に行く在学生や、入学応募者に長野研修をイメージしてもらうこと。</p> <p>長野の良いところを見つけ動画を納め活動を通して動画制作者としての観察眼を養う。</p>	2 (5)	30	1					○	○					
	○	海外短期留学研修1	<p>海外提携校においてESL(English as a Second Language)講座並びに異文化コミュニケーションの実践的研修を実施する。</p>	1 (2)	90	6					○	○					
	○	海外短期留学研修2	<p>海外提携校においてESL(English as a Second Language)講座並びに異文化コミュニケーションの実践的研修を実施する。</p>	2 (2)	90	6					○	○					
	○	海外短期留学研修1	<p>海外提携校(米オハイオ・ドミニカン大学)においてESL(English as a Second Language)講座並びに異文化コミュニケーションに関する実践的研修に取り組む。</p>	1②	90	6					○	○	○				
	○	海外短期留学研修2	<p>海外提携校(米オハイオ・ドミニカン大学)においてESL(English as a Second Language)講座並びに異文化コミュニケーションに関する実践的研修に取り組む。</p>	2②	90	6					○	○	○				
	○	建築インテリア海外研修1	<p>西洋の建築および都市に関する特別集中講義を実施するとともに、実際に現地(ヨーロッパ)に赴き空間体験することで、西洋建築並びに都市計画に対する理解を深める。</p>	1⑤	90	6					○	○	○				

	○	建築インテリア海外研修2	西洋の建築および都市に関する特別集中講義を実施するとともに、実際に現地（ヨーロッパ）に赴き空間体験することで、西洋建築並びに都市計画に対する理解を深める。	2⑤	90	6	○		○	○		
	○	国内建築研修1	日本の建築および都市に関する特別集中講義を実施するとともに、実際に現地に赴き空間体験することで、日本建築並びに都市計画に対する理解を深める。	1②	30	2	○		○	○		
	○	国内建築研修2	日本の建築および都市に関する特別集中講義を実施するとともに、実際に現地に赴き空間体験することで、日本建築並びに都市計画に対する理解を深める。	2②	30	2	○		○	○		
	○	国内環境研修1	東洋のガラバゴスとも呼ばれ、独特の地形地質、生態系、生物多様性を保全する小笠原諸島に関し特別集中講義を実施するとともに、実際に現地に赴きエコツアーリズムを体験する中で、環境保全に対する理解を深める。	1⑤	60	4	○		○	○		
	○	国内環境研修2	東洋のガラバゴスとも呼ばれ、独特の地形地質、生態系、生物多様性を保全する小笠原諸島に関し特別集中講義を実施するとともに、実際に現地に赴きエコツアーリズムを体験する中で、環境保全に対する理解を深める。	2⑤	60	4	○		○	○		
合計				77科目			2430単位時間(単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業、卒業学年次生が学則上の必須科目のすべてを履修した場合に卒業を認める。		1学年の学期区分	5期
履修、当該科目の履修判定試験の6割以上の理解をもって合格とし履修終了を認める。		1学期の授業期間	7週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。